

授業科目名：ヘルスケアシステム特論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 矢野 朋子
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践と関連する社会保障制度の現状と課題について説明できる。 2. 看護実践の社会資源としての制度やNPO等の活動の実際について説明できる。 3. 多職種間の連携や協働のあり方および課題について説明できる。 4. 健康の概念を通じた看護実践の改善や向上について説明できる。 5. 看護実践者のリーダーの役割について説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>保健・医療・福祉の主要な法律、それを基盤に築かれている種々のシステムについて講義し、看護職の仕事を大きく規定している制度の中に看護実践を位置づけて、看護実践の向上に制度・政策がどのように関わるのか、看護実践者のリーダーが担うべき役割について理解できるように説明する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 社会福祉と社会保障の原則と歴史、機能と特徴</p> <p>第2回 社会福祉・社会保障の法制度①少子高齢化社会における社会保障制度の持続可能性</p> <p>第3回 社会福祉・社会保障の法制度②障害者福祉法制度の現状と課題</p> <p>第4回 医療保険制度の仕組みと給付の実際</p> <p>第5回 組織間ネットワーク、地域連携ネットワーク</p> <p>第6回 看護制度の歴史の変遷と構造</p> <p>第7回 近年の看護制度にかかわる政策過程①准看護師問題の看護制度への影響</p> <p>第8回 近年の看護制度にかかわる政策過程②訪問看護制度の政策展開</p> <p>第9回 日本のヘルスケアシステムと政策</p> <p>第10回 ヘルスケアサービス市場の日米比較</p> <p>第11回 日本の社会保障制度におけるヘルスケアサービスの在り方</p> <p>第12回 地域連携を基盤としたヘルスケアサービス</p> <p>第13回 在宅におけるヘルスケアサービス</p> <p>第14回 グローバルな視点からの保健医療福祉</p> <p>第15回 ヘルスケアサービスの経営の特徴と課題</p>			
テキスト 適宜資料を提供する。			
参考書・参考資料等 講義内で適宜提示する。			
<p>学生に対する評価</p> <p>課題への取り組み・プレゼンテーション 40%(授業内での発表の参加度)</p> <p>レポート 60%(知識や看護実践の向上に関与する制度・政策の理解度)</p>			

授業科目名：保健統計特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平和也
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健統計学の知識と技術を説明できる。 2. 保健・医療統計を適切に解釈し、説明できる。 3. 統計解析の方法を習得し、実践できる。 4. 統計解析の結果を、適切な図表を用いて表現できる。 5. 保健・医療統計の課題や最新の動向が説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>保健医療領域の研究で必要となる科学的根拠としてのデータの重要性、量的データを取り扱う際の考え方、データのパターンに応じた具体的な方法論、分析結果の解釈の仕方、看護実践への応用方法などについての理解を深めるとともに、看護研究に必要となる保健統計の見方や留意点及びデータの解析方法、看護研究に関する各種データの統計的解析と結果の解釈についての理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 保健・医療統計の基礎（リサーチクエスションの設計、測定と尺度）</p> <p>第2回 リサーチクエスションの立案</p> <p>第3回 保健統計調査・データクリーニング・サンプルサイズの設計</p> <p>第4回 Rの基本操作の習得</p> <p>第5回 データの特徴の把握・図表表現</p> <p>第6回 Rによる記述統計の算出・グラフ化</p> <p>第7回 統計の基礎（データの種類、確率分布、代表値、散布度、標準化）推定と検定</p> <p>第8回 分析方法の実践1（各種検定、相関係数、単変量解析）</p> <p>第9回 多変量解析と因果推論（バイアス・交絡と制御方法）</p> <p>第10回 DAGの書き方、分析方法の実践2(マルチレベル回帰・因子分析)</p> <p>第11回 時系列データの解析と機械学習</p> <p>第12回 分析方法の実践3（SVM,決定木解析,ランダムフォレストなど）</p> <p>第13回 研究計画（RQ・調査・分析計画・結果の提示）</p> <p>第14回 プレゼンテーション：研究計画（RQ・調査・分析計画・結果の提示）</p> <p>第15回 保健・医療統計の課題と最新の動向・まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>適宜資料を提供する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>講義内で適宜提示する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>課題への取り組み・プレゼンテーション 60%、最終レポート 40%</p>			

授業科目名：医療情報特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 多田 賀津子
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の概念と特徴から、倫理的な取り扱いを理解することができる 2. 医療情報システムおよび情報セキュリティ、個人情報保護について理解することができる 3. 医療における個人情報保護について説明することができる 4. 病院情報システムを理解し、医療情報の流れを理解することができる 5. 看護の質改善に資する情報管理のあり方について理解することができる 			
<p>授業の概要</p> <p>看護実践の場において研究論文等を含む医療情報を効率よく収集・解析・伝達するための方法を習得するとともに、情報倫理の観点から医療情報の適切な取り扱いについての理解を深める。具体的には、患者情報（個人識別情報）を含む医療情報について解説したうえで、医療情報の収集と活用や文献検索によるエビデンスの確認及び情報倫理の観点から医療情報の適切な取扱いや管理について理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 医療における情報システムと情報の流れ</p> <p>第3回 病院情報システムと情報の流れ</p> <p>第4回 情報セキュリティと情報倫理、個人情報保護法</p> <p>第5回 体験・文献に基づく個人情報保護に関する現状と課題①現状と直面する課題について</p> <p>第6回 体験・文献に基づく個人情報保護に関する現状と課題②今後の展望と対策について</p> <p>第7回 看護情報学について</p> <p>第8回 標準化について</p> <p>第9回 体験・文献に基づく看護情報と看護情報管理に関する現状と課題①看護情報の重要性</p> <p>第10回 体験・文献に基づく看護情報と看護情報管理に関する現状と課題②看護情報管理の発展と今後の展望</p> <p>第11回 看護における情報システム活用</p> <p>第12回 情報教育のあり方</p> <p>第13回 診療情報とリスクマネジメント</p> <p>第14回 医療情報の研究への適用</p> <p>第15回 まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>資料の配布および必要に応じて講義内等で指示・紹介する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>講義内で適宜提示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>課題への取り組み・プレゼンテーション 40% レポート 60%</p>			

授業科目名：看護栄養学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 秀行
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の組成を基盤に、栄養素の動態・相互作用を説明できる。 2. 栄養の過不足により、どのような病態が生じるかを理解し、栄養学的な観点から代表的な疾患が説明できる。 3. 個人差、年齢差、性差が栄養に与える影響を理解し、それぞれの状態に合わせて望ましい栄養摂取を説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>栄養は看護における重要なことからの一つであり、乳児期から老年期にいたるライフサイクルの各段階においてそれぞれに特徴的な栄養のあり方を考える必要がある。そのために五大栄養素の密接かつ有機的な関係を理解し、その上で個人差・年齢差・性差といった要因を含めて系統的・論理的に考える力を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：栄養とは何か</p> <p>第2回：食品の種類、食品の栄養素、調理と加工</p> <p>第3回：栄養素の役割①糖質、脂質</p> <p>第4回：栄養素の役割②タンパク質</p> <p>第5回：栄養素の役割③ビタミン、ミネラル、水</p> <p>第6回：消化と吸収について</p> <p>第7回：生体内の物質交換①代謝、酵素</p> <p>第8回：生体内の物質交換②3大栄養素の代謝と相互作用、ビタミン・ミネラルの関わり合い</p> <p>第9回：エネルギー代謝</p> <p>第10回：ライフステージと栄養①母性栄養、乳幼児、学童期、思春期</p> <p>第11回：ライフステージと栄養②成人期、更年期、老年期</p> <p>第12回：疾病の予防と治療における栄養の役割</p> <p>第13回：栄養評価</p> <p>第14回：食事摂取基準</p> <p>第15回：まとめ</p>			
テキスト			

適宜資料を提供する。

参考書・参考資料等

講義内で適宜提示する。

学生に対する評価

課題への取り組み・プレゼンテーション60% レポート40%

授業科目名：組織管理・医療倫理特論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平尾 明美
			担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 組織における倫理的課題や倫理的課題への組織的対応についての理解を深め、現実の問題に対して適切な対応策を立案・評価できる。 2. 医療安全文化の醸成に必要な知識と方法論を学び、医療事故防止のための組織的な対応や危機管理の原則を理解し、危機的状況における迅速かつ効果的な対応策を実行できるスキルを説明できる 3. ガバナンスとアカウンタビリティの基本概念を理解し、組織が信頼性と透明性を確保するための管理体制や実践的手法を習得する。 4. 医療機関における質管理のための第三者評価の意義やプロセスを学び、質改善に向けた評価の活用方法を説明できる。 5. 医療機関の財務管理に必要な基本的な知識とスキルを身につけ、経営の持続可能性を考慮した財務管理を説明することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>医療組織における倫理的および安全管理の重要性に焦点を当て、現代の医療現場で必要とされる組織管理、経営の理論と実践について学生が探求できるように講義を進める</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 組織管理・医療倫理について-ガイダンス</p> <p>第2回 医療安全の概念 我が国における医療安全の取り組み</p> <p>第3回 医療安全文化の醸成</p> <p>第4回 危機管理、医療事故防止のための組織的対応と医療事故後の対応</p> <p>第5回 組織における倫理的課題の認識①看護師の過重労働と患者ケアの質に関する倫理的課題</p> <p>第6回 組織における倫理的課題の認識②患者の自己決定権と看護師の職業的責任とのバランスに関する倫理的課題</p> <p>第7回 質評価の枠組みと指標</p> <p>第8回 質評価から改善へ-クオリティマネジメント</p> <p>第9回 第三者評価・ベンチマーキング</p> <p>第10回 組織における倫理的課題への対応策の設計能力①看護師の職業的倫理と組織のポリシーの整合性の確保</p> <p>第11回 組織における倫理的課題への対応策の設計能力②看護師の過重労働問題に対する倫理的対応策の設計</p> <p>第12回 医療機関における財務管理①コスト管理と資源配分の最適化</p> <p>第13回 医療機関における財務管理②予算編成と財務計画の実施</p> <p>第14回 倫理的意思決定とリーダーシップについて</p> <p>第15回 まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>指定書籍はないが、事前に文献・書籍の紹介をおこなう</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>講義内で適宜提示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>課題に対するプレゼンテーション 50%、レポート 50%</p>			

授業科目名：看護理論特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山下 裕紀
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論の生成について説明できる。 2. 臨床における問題解決のための実践的看護理論の活用方法について説明できる。 3. 対応困難な看護場面について看護理論の視点から分析できる。 4. 臨床で役立つ看護理論について説明できる。 5. 具体的な看護場面について看護理論の視点から分析できる。 			
授業の概要			
看護理論の生成についての理解に向けて、看護実践の支えとなる代表的な理論を取り上げ、看護理論と看護理論を活用するための知識を高めるとともに、看護理論を用いた具体的な実践方法の考察を通して、臨床現場での応用に結びつける能力を高める授業展開を行う。			
第1回 ガイダンス・看護理論の発展 第2回 看護理論とは 第3回 看護理論の生成過程の紹介 第4回 看護理論の生成過程に学ぶ 第5回 看護理論の分析と評価 第6回 看護理論の理解：大理論 第7回 看護理論の理解：中範囲理論 第8回 看護理論の理解：実践理論 第9回 看護理論の理解：状況特定理論 第10回 実践的看護理論の活用：中範囲理論・看護周辺理論 第11回 経験事例の提供：対応困難な看護場面の紹介 第12回 経験事例の提供：対応困難な看護場面の分析 第13回 プレゼンテーション①事例及び分析過程の紹介 第14回 プレゼンテーション②事例の看護理論への適応 第15回 まとめ			
テキスト			
看護実践に活かす中範囲理論（第3版）			
参考書・参考資料等			
筒井真優美編：看護理論家の業績とその評価 第2版、医学書院、2020			
高田早苗編著：こんなとき臨床で役立つ看護理論、メディカ出版、2004			
学生に対する評価			
課題への取り組み・プレゼンテーション 50% レポート 50%			

授業科目名：フィジカルアセスメント特論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：平尾明美
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.日常的にみられる病態を系統的に理解し、より高度な有謎実践に向け、態生理学的状態をエビデンスに基づき判断できる。 2.多織な臨床場面における重姿な病態の変化や症状をいち早くアセスメントできる。 3.フィジカルアセスメントを活用し 症例に関する適切な情報収集と分析ができる。 4.病歴や身体所見などの情報を統合してアセスメントができ、今後必要となる処置や検査の予測ができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>部位別の身体診察の手技を高めるとともに、年齢の変化や特徴をとらえた身体惨努及び状況に応じた身体診察についての理解を深めることで、フィジカルアセスメントを基盤とした有穏ケア能力を高められるよう教授する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 身体診察基本手技</p> <p>第2回 部位別身体診察手技と所見：全身状態とパイタルサイン 頭頸部、神経系、四肢・脊柱</p> <p>第3回 部位別身体診察手技と所見：胸部、乳房、リンパ節、腹部、泌尿器・生殖器</p> <p>第4回 症状別全身状態：摂食嚥下障害、悪心・嘔吐、発熱、呼吸障害</p> <p>第5回 症状別全身状態：ショック、がん、浮腫、脱水、意識障害</p> <p>第6回 症状別全身状態：高次脳機能障害・運動障害、痛みの診察、頭痛、がん性疹痕</p> <p>第7回 身体診察の年齢による変化：小児</p> <p>第8回 身体診察の年齢による変化：高齢者</p> <p>第9回 状況に応じた身体診察：救急医療</p> <p>第10回 状況に応じた身体診察：在宅医療</p> <p>第11回 身体診査（演習）：全身状態・緊急度の評価</p> <p>第12回 身体診査（演習）：問診・フィジカルアセスメント</p> <p>第13回 身体診査（実習）：適切な問診、意識の評価</p> <p>第14回 身体診査（実習）：腹部・胸部のアセスメント</p> <p>第15回 まとめ フィジカルアセスメントを基盤とした看護ケア</p>			
<p>テキスト</p> <p>適宜資料を提供する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>講義内で適宜提示する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>演習・実習観察評価 30% 科目終了筆記試験 70%</p>			

授業科目名：臨床推論特論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：伊藤 朗子 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 主要な症候から疾患の診断ができるようになるために、知識を統合し、関連する病態生理を理解し、得られる情報を用いて論理的に推論できる。</p> <p>2. 診療プロセスのために有用な医療面接、各種臨床検査や画像検査などの検査所見から得られる情報を説明できる。</p> <p>3. 各種臨床検査、画像検査を受ける対象者や家族に必要な支援が実施できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>看護実践における臨床推論の思考過程の理解及び患者の状態を把握する各種臨床検査や画像検査による診断、診療行為や検査・治療法などの有効性や効率性を評価する手法について理解が深まるよう講義、演習を行う。</p> <p>また、臨床推論プロセスにおける医療面接の模擬体験学習を通して、医療面接の結果から患者の状態を推論し、必要な身体所見や臨床検査を基に治療方針につなげる推論技術について理解が深まるよう支援する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス、診療のプロセス</p> <p>第2回 臨床推論（症候学）：頭痛、めまい、失神、意識障害、しびれ</p> <p>第3回 臨床推論（症候学）：胸痛、動機、呼吸困難</p> <p>第4回 臨床推論（症候学）：腹痛、嘔気、腰背部痛、関節痛、感冒、全身倦怠感</p> <p>第5回 臨床推論：ケーススタディ（演習）</p> <p>第6回 医療面接の理論</p> <p>第7回 医療面接：ロールプレイ（演習）</p> <p>第8回 医療面接（実習）</p> <p>第9回 各種臨床検査の理論：心電図、血液検査、尿検査</p> <p>第10回 各種臨床検査の理論：病理検査、微生物学検査、生理機能検査</p> <p>第11回 各種臨床検査（演習）</p> <p>第12回 画像検査の理論</p> <p>第13回 画像検査（演習）</p> <p>第14回 臨床疫学の理論</p> <p>第15回 臨床疫学（演習）</p>			
<p>テキスト</p> <p>適宜資料を提供する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>講義内で適宜提示する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>演習・実習観察評価 30%、科目終了筆記試験 70%</p>			

授業科目名：臨床薬理学特論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：東 照正
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤学・薬理学の基礎知識を深め、薬物投与の基本概念を説明できる。 2. 薬物の作用機序、生体内動態及び薬理作用と副作用の関係を説明できる。 3. 各種疾患の基本的な病態生理を考慮した上で、薬理学的根拠に基づいた適切な治療薬物の効果的な使用方法を説明できる。 4. 主要薬物の安全管理と処方理論を説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と主要薬物の薬理作用や副作用及び主要薬物の相互作用や主要薬物の安全管理と処方など、看護ケアにおける安全確実な薬剤投与や薬物管理を行うための知識を深める。具体的には、主要薬物の薬理作用や副作用について、小児や高齢者など年齢による特性を含む知識の理解を深めるとともに、主要薬物の相互作用及び主要薬物の安全管理と処方に関する知識の理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス、薬物動態の理論</p> <p>第2回 薬物動態</p> <p>第3回 主要薬物の薬理作用・副作用・相互作用の理論：精神神経系疾患</p> <p>第4回 主要薬物の薬理作用・副作用・相互作用：精神神経系</p> <p>第5回 主要薬物の薬理作用・副作用・相互作用の理論：心・血管系疾患</p> <p>第6回 主要薬物の薬理作用・副作用・相互作用：心・血管系</p> <p>第7回 主要薬物の薬理作用・副作用・相互作用の理論：呼吸器系疾患、消化器系疾患、内分泌・代謝系疾患</p> <p>第8回 主要薬物の薬理作用・副作用・相互作用：呼吸器系、消化器系、内分泌・代謝系</p> <p>第9回 主要薬物の薬理作用・副作用・相互作用の理論：骨・泌尿器系</p> <p>第10回 主要薬物の薬理作用・副作用・相互作用の理論：抗がん薬、抗菌薬</p> <p>第11回 主要薬物の薬理作用・副作用・相互作用：骨・関節／腎・泌尿器系、抗がん薬／抗菌薬</p> <p>第12回 主要薬物の安全管理と処方の理論：医療安全</p> <p>第13回 主要薬物の安全管理と処方の理論：高リスク患者 [妊婦と授乳婦]</p> <p>第14回 主要薬物の安全管理と処方の理論：高リスク患者 [小児と高齢者、代謝・排泄臓器機能障害患者]</p> <p>第15回 主要薬物の安全管理と処方</p>			
<p>テキスト</p> <p>適宜資料を提供する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>講義内で適宜提示する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>ミニテスト 30%、科目終了筆記試験 70%</p>			

授業科目名：疾病・ 臨床病態特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石川 秀明
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>疾病の病態と臨床診断や治療及びその他の主要疾患の病態と臨床診断や治療についての知識を深めることができるよう指導する。演習を通して、急性期、治癒回復期、慢性期などの病期及び小児や高齢者などのあらゆる年齢や対象者の状況に応じた救急医療や在宅医療における臨床診断や治療の特性について理解を深めることにより、看護提供における病理学的な視点を活用するための知識と能力を高めることができるよう指導する。</p> <p>教員の臨床医・研究医としての実務経験を生かして、病気に対する理解を深めることができるような講義を行っている。</p>			
<p>授業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対応頻度の高い主要疾患の診断・治療が説明できる。 2. 状況に応じた臨床診断・治療（救急医学・在宅医療等）が説明できる。 3. 臨床診断プロセスに必要な思考過程を用いて実施できる。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論：循環器系、呼吸器系、消化器系、腎泌尿器系</p> <p>第2回 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論：内分泌・代謝系、免疫・膠原病系、血液・リンパ系</p> <p>第3回 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論：神経系、精神系、運動器系、感覚器系、悪性腫瘍</p> <p>第4回 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論：糖尿病、脳血管障害、急性心筋梗塞</p> <p>第5回 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論：感染症、敗血症</p> <p>第6回 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論：認知症、熱中症、小児科、産婦人科</p> <p>第7回 主要疾患の病態と臨床診断</p> <p>第8回 主要疾患の病態と治療</p> <p>第9回 救急医療の臨床診断の特性</p> <p>第10回 救急医療の治療の特性</p> <p>第11回 救急医療の臨床診断・治療</p> <p>第12回 在宅医療の診断の特性</p> <p>第13回 在宅医療の治療の特性</p> <p>第14回 在宅医療の臨床診断・治療</p> <p>第15回 まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>適宜資料を提供する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>講義時に紹介する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>ミニテスト 30%、科目終了筆記試験 70%</p>			

授業科目名：広域看護学特論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤田 俱子、山口 曜子、 合田 友美、田中 祐子
			担当形態： オムニバス、複数
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な場で療養する対象者の特性とニーズについて考察し述べるができる。 2. 様々な臨床場面の関連性と複雑性について考察し述べるができる。 3. 様々な臨床場面の対象者のニーズに応える看護について考察し述べるができる。 4. 看護過程の特徴や構成要素に応じたケア機能を高める援助について探求し意見を述べるができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>病院や在宅で治療や療養をしている人々を対象とする看護に関する理解を深めるためのディスカッションを行い、対象者の疾病治療や健康回復と健康保持や疾病予防など、看護過程の特徴や構成要素に応じたケア機能を高める援助について探求するための授業を展開する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（藤田）</p> <p>第2回：療養者の特性とニーズ 地域で暮らす人々（藤田・田中）</p> <p>第3回：療養者の特性とニーズ 病院で療養する患者（山口・合田）</p> <p>第4回：療養者の特性とニーズ 施設で暮らす高齢者（藤田）</p> <p>第5回：療養者の特性とニーズ プレゼンテーション(藤田・山口・田中)</p> <p>第6回：様々な臨床場面での関連性と複雑性 在宅での療養（藤田・田中）</p> <p>第7回：様々な臨床場面での関連性と複雑性 施設での療養と病院での療養（藤田・山口）</p> <p>第8回：様々な臨床場面での関連性と複雑性 療養移行支援（藤田・山口・田中）</p> <p>第9回：様々な臨床場面での関連性と複雑性 プレゼンテーション(藤田・山口・田中)</p> <p>第10回：様々な臨床場面の対象者のニーズに応える看護（藤田・山口・田中）</p> <p>第11回：様々な臨床場面の対象者のニーズに応える看護 プレゼンテーション(藤田・山口・田中)</p> <p>第12回：看護過程の特徴や構成要素に応じたケア機能を高める援助（藤田）</p> <p>第13回：看護過程の特徴や構成要素に応じたケア機能を高める援助 探求（藤田）</p> <p>第14回：看護過程の特徴や構成要素に応じたケア機能を高める援助 プレゼンテーション(藤田・山口・田中)</p> <p>第15回：まとめ（藤田）</p>			
<p>テキスト</p> <p>講義内で適宜提示する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>第2回、3回、4回、6回、7回、8回までの資料は教員から提示される資料のほか、学生が検索した文献を用いてまとめた資料を基にディスカッションを行う。第10回、12回は学生が検索してまとめた資料を基にする。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>課題の取り組み・プレゼンテーション 50%・レポート 50%</p>			

授業科目名：広域看護学演習	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：藤田 俱子、山口 曜子、合田 友美、田中 祐子
			担当形態：オムニバス、複数
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.様々な背景を考察し療養する人を対象とする看護における重要なテーマを取り上げることができる 2.取り上げたテーマについて考察し問題の発見方法について提案できる 3.発見した問題に対する対策を提案できる 4.俯瞰した背景を踏まえて論理的に分析し表現できる 			
<p>授業の概要</p> <p>俯瞰的な視点からの分析や考察及び主体的な問題発見から問題解決に必要な情報を収集・分析し、問題解決にむけた方法の検討と選択することができる能力を身に付けることを目的とする。具体的には、病院や在宅で治療や療養をしている人々を対象とする看護における重要な特定の主題や直面する諸課題に関するテーマを取り上げて考察できるようにディスカッションを通じてかわり、問題の発見方法や対策の設定方法の理解を深め、情報や知識を複眼的かつ論理的に分析し表現するための能力を高めるための授業を展開する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス (藤田)</p> <p>第2回 療養者を取り巻く背景 (ディスカッション) (藤田・山口・合田・田中)</p> <p>第3回 プレゼンテーション準備 (藤田)</p> <p>第4回 プレゼンテーション：療養者を取り巻く背景・個別およびシステムの課題 (藤田・山口・上山・田中)</p> <p>第5回 テーマを見出す (ディスカッション) (藤田・山口・合田・田中)</p> <p>第6回 プレゼンテーション準備 (藤田)</p> <p>第7回 プレゼンテーション：療養者を対象とする看護における重要なテーマ (藤田・山口・田中)</p> <p>第8回 テーマをめぐる問題発見と問題の整理 (ディスカッション) (藤田)</p> <p>第9回 プレゼンテーション準備 (藤田)</p> <p>第10回 プレゼンテーション：テーマをめぐる問題発見と問題の整理 (藤田)</p> <p>第11回 問題の分析と対策及び問題解決に向けた提言 (ディスカッション) (藤田)</p> <p>第12回 プレゼンテーション準備 (藤田)</p> <p>第13回 プレゼンテーション準備 (藤田)</p> <p>第14回 プレゼンテーション：問題の分析と対策及び解決に向けた提言 (藤田)</p> <p>第15回 まとめ (藤田)</p>			
<p>テキスト</p> <p>講義内で適宜提示する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>テーマ検討のための資料検索・読み込み・ディスカッションのための資料検索・プレゼンテーションのための資料検索に取り組む</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>課題の取り組み・プレゼンテーション 50%・レポート 50%</p>			

授業科目名：移植医療学特論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福 冨 教 偉
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 移植患者にみられる病態を系統的に理解し、病態生理学的状態をエビデンスに基づき判断できる。 2. 看護実践における免疫抑制療法、拒絶反応、感染症の予防と管理について説明できる。 3. 多様な臨床場面における重要な病態の変化や症状をいち早くアセスメントできる。 4. 多職種協働実践の知識を基に実践できる。 5. 看護実践における関連法規や患者の意思決定支援について説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>病院での実務経験のある医師が移植医療、特に臓器移植を中心に基礎的事項について概説する。また、各臓器における臓器移植に留まらず、移植医療の歴史、移植医療システム、移植免疫、臓器移植固有の感染症、臓器摘出・保存、移植手術、代替治療としての人工臓器、レシピエントコーディネーターなど、移植医療を取り巻く社会的制度、移植固有の合併症、免疫抑制療法についても広く、解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 移植医療の歴史</p> <p>第2回 移植医療に関する法制度・死の倫理</p> <p>第3回 移植医療システム概論</p> <p>第4回 移植免疫学1： 細胞性免疫</p> <p>第5回 移植免疫学2： 抗体関連型拒絶免疫</p> <p>第6回 免疫抑制療法</p> <p>第7回 移植後感染症の予防・診断・治療</p> <p>第8回 臓器摘出手技・臓器保存法</p> <p>第9回 組織移植の現状と課題</p> <p>第10回 胸部臓器移植（心臓、肺、心肺）</p> <p>第11回 腹部臓器移植（肝、膵、小腸、腎）（担当：ゲストスピーカー）</p> <p>第12回 人工臓器（機械的循環補助、透析など）</p> <p>第13回 小児における移植医療</p> <p>第14回 レシピエントコーディネーターの役割（担当：ゲストスピーカー）</p>			

第15回 まとめ：試験
テキスト 適宜資料を提供する
参考書・参考資料等 講義内で適宜提示する。
学生に対する評価 本試験 85%、平常点（課題レポートなど） 15%

授業科目名：移植医療システム特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福 篤 教 偉 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①臓器・組織の提供に関する移植医療システムについて説明ができる ②看護実践における終末期の患者及び家族の支援（意思決定支援を含む）について説明できる ③看護実践における院内コーディネーター・メディエーターの業務を説明できる ④多様な臨床場面における重要な病態の変化や症状をいち早くアセスメントできる。 ⑤多職種協働実践の知識を基に実践できる。 ⑥看護実践におけるドナーの評価・管理、臓器・組織摘出手術について説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>臓器・組織の提供の現場での実務経験のある医師が移植医療システム、特に傷病者が予後不良になった段階から、臓器・組織提供提供に至るまでの基礎的事項について概説する。また、移植医療の概要を説明した後に、死後の臓器・組織提供における看護師の役割として、院内コーディネーター・メディエーターの業務を説明するとともに、意思決定の支援を含む様々な患者と家族の支援について討論をまじえながら説明する。死の定義・倫理、虐待についても解説する。そのうえで、2つのシミュレーション（①意思決定・院内調整、②ドナー管理・臓器摘出手術）を教員・学生の参加型講義で行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 移植医療の現状と成績 第2回 移植医療システム概論 第3回 移植コーディネーターとは 第4回 死の倫理・脳死・尊厳死・安楽死 第5回 救急における家族看護・終末期ケアと医療倫理 第6回 臓器提供に関する選択肢呈示：メディエーターとは 第7回 臓器・組織提供の流れ 第8回 ドナーコーディネーターの役割 第9回 ドナー評価・管理・摘出手術時の管理 第10回 臓器提供時の家族支援の在り方 第11回 虐待における院内体制・小児臓器提供の実際 第12回 臓器提供シミュレーション：意思決定・院内調整 第13回 臓器提供シミュレーション：ドナー管理・摘出手術 第14回 提供後家族のケア 第15回 まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>臓器移植におけるドナーコーディネーション学入門</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>講義内で適宜提示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験 85%、平常点（課題レポートなど） 15%</p>			

授業科目名：看護研究 方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤田 俱子
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究における倫理的配慮を理解し説明できる 2. 看護研究の意義と目的、研究のプロセスを理解し説明できる 3. 質的・量的研究デザインと方法を理解し説明できる 4. 研究論文のクリティークができる 			
<p>授業の概要</p> <p>質の高い看護を提供するための課題解決に必要な研究活動に関する能力を身につけ、看護研究における倫理的配慮についての理解を深めるための授業を展開する。具体的には、看護実践を質的又は量的側面から扱う研究活動に必要な文献検討・質的研究・量的研究から面接法や質問紙法などの研究手法とともに、対象者の人権擁護や研究不正の回避など、看護研究における倫理について教授する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンスおよび看護研究の意義と目的</p> <p>第2回 研究のエビデンスレベルと研究デザイン</p> <p>第3回 研究のプロセス（臨床上の問いから研究の問いへ）</p> <p>第4回 研究のプロセス（文献検討とクリティーク）</p> <p>第5回 研究のプロセス（研究の概念図と目的）</p> <p>第6回 研究のプロセス（研究計画策定）</p> <p>第7回 研究の倫理的配慮</p> <p>第8回 研究のプロセス（分析と発表）</p> <p>第9回 概念分析・事例研究</p> <p>第10回 量的研究方法・質的研究手法</p> <p>第11回 尺度の信頼性と妥当性・質問紙作成</p> <p>第12回 面接法・質的帰納的分析</p> <p>第13回 プレゼンテーション：量的研究論文のクリティーク</p> <p>第14回 プレゼンテーション：質的研究論文のクリティーク</p> <p>第15回 看護研究方法のまとめ</p>			
テキスト			

看護研究 原理と方法 第2版
参考書・参考資料等
よくわかる看護研究の進め方・まとめ方 医歯薬出版株式会社
よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 医歯薬出版株式会社
看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん 医歯薬出版株式会社
学生に対する評価
課題への取り組み・プレゼンテーション50% レポート50%